



千樹寺を紹介するホームページはこちらから



豊郷町の南端近くの旧中山道沿い「日吉山千樹寺」の山号碑の傍らに「江州音頭発祥地」の石碑を目にする事ができます。この千樹寺(同町下枝)が奈良時代に行基が創建した由緒ある古刹であり、夏の盆踊り「江州音頭」発祥の舞台です。千樹寺は、その政治・産業立地から過去2度焼失しています。1度目は、戦国時代、織田信長と六角氏との戦いの中で焼失しました。その後、天正14(1586)年、羽柴(豊臣)秀吉が天下を統一した年、浄財によつて再建されました。その落慶法要の際に、境内に人形を多数並べて、般若心経の経文に節をつけてコミカルに踊り始めたそうです。娯楽の少ない時代、

## ■ 奈良時代創建の千樹寺 (豊郷町)

# 江州音頭発祥地へようこそ



昨年8月17日に行われた「とよさと江州音頭夏まつり」=いずれも豊郷町下枝の千樹寺で

86年、羽柴(豊臣)秀吉が天下を統一した年、浄財によつて再建されました。その落慶法要の際に、境内に人形を多数並べて、般若心経の経文に節をつけてコミカルに踊り始めたそうです。娯楽の少ない時代、夜が更けるのも忘れて楽しく踊りあかしたと伝わりま



境内で披露される扇絵日傘踊り

「施餓鬼供養」が結びついて仏教の年中行事として定着したからと考えられます。千樹寺では8月17、18日に「観音盆」として守られてきました。2度目は江戸時代に、火事で焼失してしまいます。その後、近江商人「又十」2代目藤野四郎兵衛の尽力によつて江戸時代後期の弘化3(1846)年に再建されました。その遷仏式に、東近江市八日市の歌い手を招き、祭文調の音頭を歌ってもらったそうです。時代が進み、踊りも改良され、扇と絵日傘を加えた豊郷の無形文化財「扇絵日傘踊り」が誕生しました。そして、江州音頭は近江商人の手によつて全国に広がっていきました。著名なところでは大阪の「河内音頭」や「ヤンレ節」も同じ系統です。1963年に、「王将」などのヒット曲で知られる村田英雄さんが「江州音頭」を歌われたことが広く知られる要因の一つと考えられます。



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから

【アクセス情報】千樹寺へは近江鉄道豊郷駅から徒歩約20分。

今夏、地域のお祭りで盆踊りがありましたら夏の思い出に踊ってみませんか？(豊郷町観光協会・野村惣)